函館・道南の医療・介護・福祉の雑誌

メディカルはこだて

Medical Hakodate

2024
July
89

函館五稜郭病院と高橋病院は術前リハビリテーション連携を開始

能登半島地震被災地の支援活動を振り返る

心房細動による脳梗塞予防の最新手術に成功

Mako（メイコー）による人工関節手術を開始

函館五稜郭病院は「ＬＩＮＥで呼び待ち」を開始

関節外科・鏡視下手術のスペシャリスト

血管内治療に最新の血管撮影装置を導入

函館五稜郭病院と高橋病院は術前リハビリテーション連携を開始 ①

肺がん患者の手術前にリハビリを実施

術前リハビリを急性期病院と回復期病院とが連携するのは国内初の取り組み

函館五稜郭病院のスタッフ

函館五稜郭病院（中田智明病院長）と高橋病院（高橋肇理事長）は、肺がん患者の術前リハビリテーションの連携を開始した。肺がん患者は函館五稜郭病院で手術をする前に高橋病院に入院し、約1週間程度のリハビリを実施する。目的は術後の合併症を減らし回復を早めるため。術前リハビリを急性期病院と回復期病院とが連携するのは、国内ではほかに例がない取り組みだ。肺がんは1998年に胃がんを抜いて肺がんが死亡率の第1位となった。肺がんの患者数は増加傾向にあり、道南地区では肺がんと診断されるのは年間約600人で、そのうち60％以上が同病院で診療をしている。同病院では増えている肺がんを始めとする呼吸器疾患の早期からの集学的治療と予防を目指して2019年に「肺がん・呼吸器病センター」を開設、診療科や職種横断的な診療体制を整えている。肺がんの集学的治療の一環としてリハビリを積極的に行ってきたが、その結果として合併症率は低く抑えられてきた。術前リハビリも術後の合併症の発生率低下に効果があるとされている。

呼吸器外科科長で肺がん・呼吸器病センター長を兼務する上原浩文医師は「呼吸器リハビリに習熟した多くの理学療法士が在籍している高橋病院とは、昨年より連携実現への課題など話し合いを重ねてきました。一人暮らしの高齢者が手術後に自宅に戻って、以前と同じ生活をするためにはリハビリが必要です」と話す。しかし同病院のような急性期病院では入院期間も限られることから十分なリハビリを行うことはできない。

副看護部長の鈴木沙織さんは「今までは手術後の回復に時間を要する患者さんが回復期病院へリハビリ転院をすることがありました。それを手術前から回復期病院でリハビリを行うこと

写真左から函館五稜郭病院呼吸器外科科長の上原浩文医師、副看護部長の鈴木沙織さん、リハビリテーション科の浅地菜々子さん、地域連携・PFMセンター主任の古川伊代さん、呼吸器外科の慶谷友基医師、リハビリテーション科科長の中釜郁さん

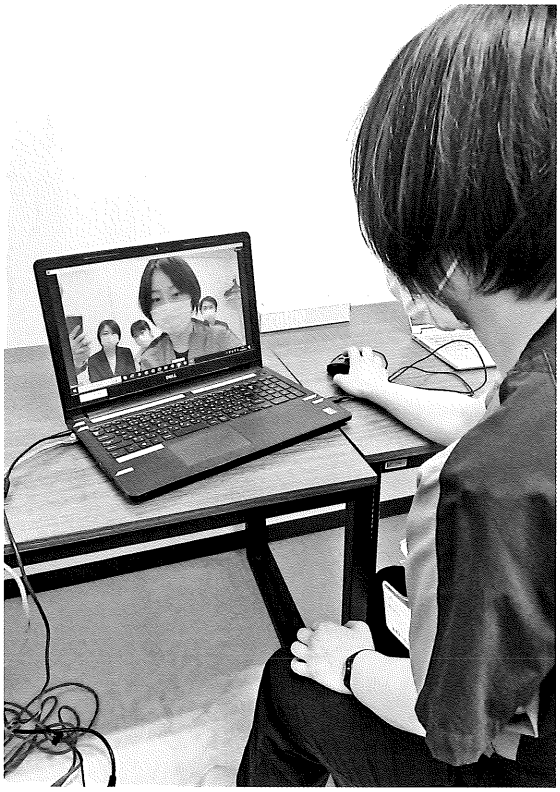
で、手術後の回復を早めることが可能になると考えています」と言う。「術前リハビリによりＡＤＬ（日常生活動作）能力が手術前のレベルに速やかに戻れることを期待しています」

この連携によって「手術後の体力低下が懸念される患者がより確実に社会復帰ができ、社会復帰後も長期的に元気に暮らして頂ける可能性が高まる効果が期待できる」と上原医師は強調する。術前リハビリは呼吸機能の低下、動作能力や栄養状態に不安がある患者が対象となる。理学療法士の浅地菜々子さんは「肺がんと診断された患者さんが手術を受ける前には、術後合併症や身体機能・生活機能低下のリスクの程度を把握し、個別の状態に応じた術前リハビリを提供することが重要です」と話す。「そのためにはサルコペニア（加齢による筋肉量の減少および筋力・身体機能の低下）の有無、運動機能や持久力、呼吸機能などを評価。そして想定されるリスクを明らかにしてから高橋病院へ入院しますが、評価結果や術前リハビリでの重点課題については、ＩＤ－Ｌｉｎｋ（医療，介護の多職種の情報共有ツール）を用いて情報を共有しています」

地域連携・ＰＦＭセンター主任の古川伊代さんは同センターの役割を次のように話す。「術前リハビリの対象となる患者さんが外来受診後、術前リハビリの連携に関する説明動画を視聴してもらい、内容に関する理解の有無を確認します。理解していることを確認後、高橋病院への入院日程を調整します。手術後に高橋病院での再入院を希望する場合は、また日程の調整をします。当センターは高橋病院への入院をスムーズに進めるための連携を繋ぐ役割を担っています」

両病院の連携は今年４月から本格的にスタートし、６月までに10人の患者が術前リハビリを受けている。「術前リハビリを始めてまだ日が浅いのですが、高橋病院との間では患者さんの情報共有と連携が構築されていることが感じられます。術後のリハビリも同じ医療機関（高橋病院）で実施できるメリットは大きく、手術前と同様の生活ができるように両病院でサポートしていきます」（鈴木さん）

上原医師は「急性期病院と回復期病院とが手術に備えて連携し、患者さんのＱＯＬを保とうとするのは日本初の試みです。実際に始めてみると、患者さんは元気になっています。手術する側も安心して手術ができるので、この連携をもっと日本全国に広げることができるようにしていきたい」と抱負を語った。



高橋病院とＷｅｂカンファレンスを行っている理学療法士の浅地菜々子さん

高橋病院とはインターネットを利用したＷｅｂカンファレンスを定期的に実施している。カンファレンスでは、術前リハビリの内容やリハビリ中の問題点について意見交換を行う。カンファレンスにはリハビリを担当する理学療法士のほか、医師や看護師、管理栄養士など多職種のメンバーが参加している。

函館五稜郭病院と高橋病院は術前リハビリテーション連携を開始 ②

6月までに10人が連携を利用する

呼吸器リハビリテーションに習熟している多くの理学療法士が在籍

高橋病院のスタッフ

函館五稜郭病院（中田智明病院長）と高橋病院（高橋肇理事長）は、肺がん患者の術前リハビリテーションの連携を開始した。肺がん患者は函館五稜郭病院で手術をする前に高橋病院に入院し、約1週間程度のリハビリを実施する。目的は術後の合併症を減らし回復を早めるため。術前リハビリを急性期病院と回復期病院とが連携するのは、国内ではほかに例がない取り組みだ。

高橋病院で術前リハビリを担当するリハビリテーション科は50人以上のセラピスト（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）が在籍している。呼吸器リハビリテーションに習熟している多くの理学療法士がいるが、科長の三島誠一さんは日本胸部外科学会、日本呼吸器学会、日本麻酔科学会の3学会合同の呼吸療法認定士として、2008年高橋病院に赴任。同病院の前は、山形医療技術専門学校（山形県山形市）の教員として、呼吸器系や循環器系の運動負荷に関する指導と研究を行っていた。

肺がんの術前リハビリについて、三島さんは「手術前の筋力や栄養面の強化は整形外科の領域では経験がありますが、がん患者のリハビリを行う試みは、とても興味深いと思いました」と語る。「術前リハビリは非常に注目されるようになってきました。術後より術前の効果が認められるという論文も次々に発表されています」。連携は今年4月から本格的にスタートし、6月までに10人が連携を利用している。「術前リハビリのメニューは個々によって違ってきます。痰が出しにくいなど、この患者さんはどの部分が弱いのかを見極めてメニューを決めます。リハビリ中には手術後に自分で自主トレーニングを行うこ

写真右から高橋病院リハビリテーション科科長の三島誠一さん、栄養管理室室長の丸山祥子さん、地域包括ケア病棟師長の塚本美穂さん、総合支援センター地域連携室室長の石井義人さん

とも覚えてもらいます。患者さんの情報に関しては、ＩＤ－Ｌｉｎｋ（医療，介護の多職種の情報共有ツール）が非常に役立っています」

リハビリの効果を高めるためにも栄養は重要だ。十分な栄養管理は術後の合併症の予防につながっている。「当院では函館五稜郭病院での栄養状態の評価に基づいた食事を提供しています。手術を受けると体重の減少や筋肉量の低下などの栄養障害から合併症も起こりやすくなります。そのためＢＣＡＡ（分岐鎖アミノ酸）などを摂取し、体重減少を防ぎ免疫の維持に繋げています」。栄養管理室室長の丸山祥子さんは栄養の重要性を強調する。「入院中に退院後の栄養に関する話もします。栄養が大切だということを少しでも理解してもらえるだけで退院後の生活は違ってくるはずです」

地域包括ケア病棟師長の塚本美穂さんは「手術前のリハビリの必要性を理解してもらうことが看護師の役割です」と話す。

「リハビリを頑張っていることを直接、伝えることで患者さんのモチベーションがアップします。1週間禁煙した爽快感を強調した人もいました。禁煙のきっかけとなった1週間は生活指導に繋がりました」

肺がん患者のリハビリを行っているリハビリテーション科理学療法室主任の石垣広大さん

「術前リハビリが決まった患者さんの入院がスムーズに進んでいくよう院内の入院スケジュールを各部署と調整します」と話すのは総合支援センター地域連携室室長の石井義人さんだ。石井さんは患者の家族と話をすることが多い。「ご家族と話をしている中で、リハビリの大切さを伝えることもありますが、理解してもらうことでご家族からご本人を励ましてくれたこともありました」。これまで函館五稜郭病院の手術後に2人が再入院した。「自宅での生活がすぐに難しい場合などは当院で術後のリハビリを行います。患者さんは函館五稜郭病院と当院でしっかりと連携していることが安心感につながっているようです」

三島さんは「約1週間の術前リハビリの期間で自主トレをしっかりと覚えてもらえるようにしています。自主トレを術後に継続することで5年後に違いが出てくるはずです。術前・術後リハビリの地域連携に参加できることは当院にとって光栄なことです。10月には新病院もオープンしますが、リハビリ部門をより充実させて、さらに連携も進展できるようにしていきます」と話している。